

---

forget-me-not

浅葉りな

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

f o r g e e t - m e - n o t

### 【コード】

N 2 8 2 6 C

### 【作者名】

浅葉りな

### 【あらすじ】

わたしを忘れないで……。彼女は静かに、そう言った。

私を、忘れないで。

別れ際に彼女は、ぼくに小さい薄紫の花束を渡した。

遠くに行ってしまうのは、ぼくではなくて彼女だったのに。

彼女の想いがつかめずに、ぼくは未だ、あのときをさまよっていた。

小さな、花が風にゆれている。

彼女のくれた勿忘草。

透明なブルーの花瓶に挿して、窓際に飾ってある。どうしても捨てる気にはなれず、もう枯れてしまったというのにそのままだ。

…ぼくは、何を待っているのだろう。こんな枯れた花を見つめて、そうつと、いつも優しく、暖かい笑顔を見せてくれた彼女。誰にでも、見せたわけではない。ぼくと、それとあとはほんの少しだけ、の人にしか見せなかった。

人見知りが激しくて、ほとんどクラスの人間とは口を利かなかった。

…だから、暗いと思われていたけれど、それは嘘だと思う。

彼女は誰より明るかった。ただ、表現法を知らなかっただけで。

…どうして、いつてしまったんだ…

ぼくを、たったひとり置いて。

彼女には、もう、会えない…

そう思うと、涙があふれてくる。

外国に、行ってしまったとか。

転校、してしまったとか。

それならまだいい。ぼくは、いつだって会いに行ける。それくらい、行けない距離じゃあないと思う。

でも、彼女がいるのは

地上のどこでもない。

空の上の、天の国。

神さまを信じてはいないけれど。

彼女は、きっとそこにいる。

突然の出来事だった。

彼女にとっては違っただろうけれど、ぼくにとっては、確かに唐突だった。

病院のベッドに横たわり、静かに微笑む彼女を見たのは、眠りにつくのほんの数分前。それまでぼくは、彼女がもうすぐ目覚めぬ眠りについてしまうことなど、予想さえしていなかった。

「forget-me-not」

たったひとことそう言っただけ、彼女はぼくに勿忘草を渡した。力なく、優しく笑って。

そうして、そのあとすぐに、ぼくの時間も止まってしまった。

彼女が死神の冷たい手に、連れ去られてしまったのと時を同じくして。

風が、ぼくの前髪を弄る。

そっと、枯れた花も揺れる。

きつとぼくはいつまでも待ちつづける。

止まってしまった彼女の時と、停滞しているぼくの時間は、いつまでもいつまでも、重なり合っている。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2826c/>

---

forget-me-not

2011年1月26日07時26分発行